



外国出張報告書

平成 27 年 11 月 9 日

1. 出張国名 ガーナ
2. 出張月 平成 27 年 7 月
3. 出張目的 ガーナにおける稲作農家の生産・販売に関する調査：B

4. 成果の概要

ガーナ国北部州タマレ市郊外の **Nwogu** 村において、当村在住の農産物を扱う商人 32 名に対してグループ・インタビューを実施した。取扱い作物は、トウモロコシ、コメ、トウガラシ、ダイズ、オクラ、トマト、ラッカセイなど。近年、取扱量が増えているのは **Nwogu** 村で生産が増えているトウモロコシ、コメ、トウガラシ、ダイズで、増加率は、コメ、トウガラシ、ダイズ、トウモロコシの順で高い。これらの作物は品質も向上している。取扱いが減少しているのは、ヤム、キャッサバ、ラッカセイ、オクラ、トマトである。ヤムは土地が劣化したため、キャッサバは増加した家畜（牛、山羊、羊）による食害、ラッカセイは 4～5 年前からの病害によって生産が低下した。

同国アシャンティ州クマシ市郊外の **Biemso** 村において、稲作農家 21 名に対して経営概況、技術的課題、規模拡大への意向などに関する半構造的聞き取り調査を実施した。ほとんどの農家は稲作面積の拡大意向を持っているが、その最も大きな制約要因は耕耘機の利用に制限があることである。耕耘機は高価格なため個人での購入は困難であり、大半が作業委託を行っているがその料金も年々高騰している。